

平成30年度学校評価報告書

平成31年3月22日

北海道教育委員会教育長 様

北海道松前高等学校長 印

次のとおり平成30年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

昨年度の学校評価の結果を踏まえ、次の推進事項を重点目標とし、すべての生徒達の自己実現を図る学校づくりを進める。

- 1 主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善に取り組み、指導法・評価方法の工夫を図る。
- 2 規律ある生活態度の定着と、自ら考え行動し、社会に主体的に貢献し、変化に対応できる力の育成を図る。
- 3 地域や小中学校と連携し、保護者・地域から信頼される、魅力ある学校づくりを図る。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	主体的・対話的で深い学びについては、教員個々の意識が向上し、積極的に取り組んでいる状況が窺える。また、朝読書は地道な取り組みであるが、落ち着いた雰囲気の中で授業に取り組むきっかけになっており、好循環が形成されている。しかし、指導と評価の一体化、評価指導の年間計画、観点別学習状況評価の具体的な改善方策を検証し、授業改善を更に、進める必要がある。	松前高校の様々な取り組みが功を奏し、学力が向上し、成績不振者が減少している事から「概ね充分である」という評価を得た。PR活動の一層の充実を図り、本校の取り組みを中学校だけではなく、地域住民や小学校にも理解を図るべきである事やスタディサプリの利用時間を延長させる取り組みが重要である。
改善方策	○各分掌の内規の見直を適宜行う。 ○各教科において主体的・対話的で深い学びの実現に向け、絶え間ない授業改善を図る。 ○指導と評価の一体化を進め、年間評価計画・単元の評価計画の作成により評価の妥当性・信頼性を担保する。	
生徒指導	教育相談の充実が生徒理解に繋がり、より良い人間関係及び生徒事故の未然防止に繋がっている。特に、教育相談の有意性が高く評価されている。また、生徒の環境美化意識の向上が高く評価されている。しかし、生徒の自主性を尊重した生徒会運営に指摘があり、生徒会活動の一層の充実及び生徒の主体性や自主性を育む取り組みが必要となっている。	生徒会の生徒が桜祭りの観光案内ボランティアに取り組んだ事や社会福祉協議会との連携により、独居老人宅のクリスマスボランティアに取り組んだ事等は高評価を得ていることから「概ね充分である」という評価を得た。今後は生徒の自主性を引き出し、生徒が主体となって活動を継続させる学びの場を提供する取り組みが重要となる。
改善方策	○ボランティア活動を通して生徒の自主性や積極性を育て、自主的な生徒会運営を促進する。また、生徒会活動を通して育成すべき資質・能力を明確にし、指導を継続する。 ○予防的、開発的教育相談の充実を図り、生徒の発達段階を正確に把握し、情報の共有・活用・シェア等を促進する。	
進路指導	個々の能力や適性、進路希望に対して早期から進路指導を継続的に推進してきた事が功を奏し、今年度も進路100%を達成できた。しかし、進路シラバスの活用方法やスタディサプリの有効利用等の点で改善が必要である。町からの支援により公務員対策や検定・資格補助金を頂いている事をPRし、生徒や保護者の意識改革に取り組む。	「概ね適切である」という評価を得た。進路決定100%は評価できる。また、国公立大学3名の合格は素晴らしい。町からの支援を受けてこれだけの結果が出ている事をPRする事が効果的である。また、外部人材を活用し、生徒を大いに刺激する事が大切である。
改善方策	○検定・資格取得については積極的な受検を促す、働きかけを行う。 ○進路シラバスを活用し、3年間を見通した進路指導が継続できるよう各学年で指導すべき行うべき内容等を明確にする。 ○模擬試験については来年度から町の補助対象となるので、広報を確実にし、生徒へ積極的な受検を促進し、生徒・保護者の意識改革に向けて取り組む。	
公表方法	Webページ掲載	

3 添付資料

- (1) 平成30年度 年度末自己評価集計結果
- (2) 平成30年度 学校評価アンケート集計結果
- (3) 平成30年度 学校評価に係る学校関係者評価

平成30年度 学校評価に係る学校関係者評価用紙

北海道松前高等学校

自己評価結果に対する学校関係者評価 【A：充分である B：概ね充分である C：不十分である D：改善を要する】

分類領域	評価項目	達成状況	取組の適切さ	改善の方策	自己評価の適切さ	自己評価の適切さ
学校経営	確かな学力を育成し、協働して課題を解決する能力を育み、主体的で深い学びを促進する。	B	B	○教員一人一人のスキルアップを図り、人間性を高める。また、「チーム松高」として職員それぞれが当事者意識を持って、信頼され、選択される学校づくりを目指し、学校全体で改善を図る。 ○選択と集中を行い、優先順位を考え、業務改善を行い、働き方改革を推進する。	B	B
	多くの体験活動を通して、基礎的汎用的能力の育成を図るキャリア教育を推進する。	B	B			
	情報発信等を通して、家庭・地域社会との連携を深め、信頼される学校づくりを推進する。	B	B			
	チームワークで組織の協働性・機動性、教員個々の指導力を高め、学校力向上を推進する。	B	B			
評議者の意見等	○松前町からの支援を引き出す為に、学校の取り組みを効果的に伝え、アピールする必要がある。					
教育課程	生徒の興味、関心、適性に応じ、多様な進路の実現を目指し、適切な教科・科目の履修ができる教育課程を編成する。	B	B	○「松前学」は全教職員が意義と目標を理解し、全員で取り組む。また、教科間で、教科横断的取組を推進する。 ○道徳教育の全体計画を見直し、道徳教育推進教師を中心に具体的に見直しを図る。 ○教務部と進路指導で育成を目指す資質・能力について、検討・すり合わせを促進する。	B	B
	学校設定科目「松前学」・総合的な学習の時間の系統的な学習ができる教育課程を編成する。	B	B			
	基礎的汎用的能力を育成するキャリア教育の視点から体系的・系統的に学習できる教育課程を編成する。	B	B			
	教育活動全体を通じた道徳教育及び人間としての在り方生き方に関する教育の充実を通して豊かな心を育てる教育課程を編成する。	B	B			
	全教科と連携し、教育課程の検討を深化する。	B	B			
評議者の意見等						
学習指導	主体的・対話的で深い学びを実現する為に指導・評価方法の工夫・改善を図る。	B	A	○授業規律の確立を図り、全教員で共通した見解と目標を持ち、改善に取り組む。 ○各分掌の内規の見直しを適宜行う。 ○主体的・対話的で深い学びの実現に向け、一層の授業改善を推進する。 ○スタディサプリの生徒全員の活用を目指し、指導の工夫、改善を図る。 ○指導と評価の一体化を高める為に、年間評価計画・単元の評価計画を作成し、評価の妥当性・信頼性を担保する。	B	B
	授業規律の確立を図る。	B	B			
	教務内規の見直しを図る。	B	B			
	指導と評価の一体化、評価指導の年間計画、観点別学習状況の評価	B	B			
	「朝の読書」を効果的に実施する。	B	B			
評議者の意見等	○スタディサプリの利用時間を上げる取り組みが重要である。 ○学力が向上し、成績不振者が減少している点が素晴らしい。取り組みが功を奏している。中学校へしっかりアピールすべきだ。					
生徒指導	予防的、開発的な教育相談を通して、生徒理解に努め、よりよい人間関係の育成を図り、生徒事故の未然防止に努める。	B	B	○予防的・開発的な教育相談を一層充実させ、情報共有、情報活用を一層推進する。 ○生徒の主体性を育む為、様々な場面で教員側から適切に仕掛ける。 ○生徒会担当者と学級担任が情報の共有を通して連携し、生徒会活動を通して育成すべき資質・能力を明確にし、生徒の主体性を育むとともに自主的な活用を継続的に支援する。 ○部活動の改革を継続する。	B	B
	校内・外において基本的な生活習慣の確立に努める。	B	B			
	環境美化に対する意識の向上を図り、自ら実践する態度を育成する。	B	B			
	自主的に健康管理できる人間の育成を図る。	B	B			
	生徒一人一人が生徒会活動を理解し、自主的、積極的に活動できる環境作りと態度の育成を図る。	B	B			
評議者の意見等	○過去に教員が頭髪の色の指導時において、規程が統一されていないようであったので、共通意識を持って統一する事が大切である。					
進路指導	早期からの就職・進学両方に対応する進路指導を推進する。	B	B	○進路シラバスの積極的活用を促すため、具体的指導を継続する。 ○スタディサプリの全員活用を目指し、分掌、学年、教科の連携・協働を推進する。 ○模擬試験については来年度から町の補助対象となるので、広報を確実に行い、生徒へ積極的な受験を促し、生徒・保護者の意識改革に向けて取り組む。	B	B
	進路シラバスを活用し、3年間を見通したキャリア教育により、適切な進路選択と実現が達成できる進路指導を推進する。	B	B			
	個々の適性・能力・希望に応じた進路選択を指導する。	B	B			
	情報の効果的な収集・整理・提供を推進する。	B	B			
	学年、保護者との十分なコミュニケーションを形成する。	B	B			
	スタディサプリ、模擬試験などを利用した進路指導を充実させる。	B	B			
評議者の意見等	○医療系志望の生徒の数学・理科等の対策を実施して欲しい。 ○生徒の視野を広げるために、様々な職種の人たちから直接生徒に話してもらう様な機械を設定してみてもどうか。 ○外部業者（リクルート・キッコーポレーション）等の外部人材を更に活用して生徒を刺激すべきだ。					
いじめの対応	松前高等学校「いじめ根絶宣言」を生徒に定着させ、学校として「いじめを許さない」姿勢を生徒に浸透させる。	B	B	○「いじめ根絶宣言」・「基本方針」の毎年見直しを行い、LHR討議等、具体的な取組を通して、生徒の主体性の向上を図る。 ○本校のいじめ根絶の取り組みをPRし、周知を図る。	B	B
	いじめ防止基本方針に則り、日頃から生徒の様子に注意を払い、生徒情報を共有し、その情報に応じて組織的かつ柔軟に対応する。	B	B			
	重大事態が発生した場合には、速やかに北海道教育委員会を通じ北海道知事へ報告し、北海道教育委員会と協議のもと対処する。	B	B			
	いじめを発見した時には、速やかに対応し、是々非々の姿勢で指導する。	B	B			
評議者の意見等						
地域関係連携	地域の人材や施設を活用した教育活動の充実を図る。	B	B	○地域の行事について理解を深める。 ○中学生の参加できる行事や取り組みを案内する。 ○松前学園との連携を深める取組を積極的に探るとともに、継続可能な取組を実施する。 ○地域の教育関係及び福祉関係団体と連携・協働し、ボランティア活動の充実を図る。 ○「松前学」を中心とした地域の教育力を活かした実践を推進し、地域社会の継続・維持に貢献する取組を更に充実させる。 ○本校の実践について理解が深まり、支持される広報活動を目指し、活動の充実を図る。	B	B
	P T A 活動の充実を図る。	B	B			
	地域行事やボランティア活動に生徒と教職員が主体的・積極的に参加交流する。	B	B			
	小中一貫「松前学園」との連携を推進する。	B	B			
	学校通信やホームページ、学校案内、学校広報ポスターの内容を更に充実させる。	A	A			
評議者の意見等	○大学進学や就職の素晴らしい状況を伝えるために、町からの支援を受けてこれだけの結果が出ている事を広報紙に記載し、PRする事が効果的だと思う。					
教員研修	資質能力を高める公開授業と研修を推進する。	B	B	○中学校の授業参観への積極的な参加。 ○校内外の研修を通して、授業力の向上を図る。 ○公開授業週間・研究授業の実施方法を工夫し、効果があがるものとする。 ○松前学園との連携に向け、一層の相互理解を促進する。	B	B
	小中学校との学びの連続性の維持により授業力を向上させる。	B	B			
評議者の意見等	○小中の先生との交流を行う事が重要。 ○中高の情報交換や異業種交流等が必要である。					

平成30年度 学校評価（年度末自己評価） 集計結果

◇本校の教育活動について、次の項目ごとに評価をお願いします。

【評価】A(4)～充分である B(3)～概ね十分である C(2)～不十分である D(1)～改善を要する (*評価C・Dの場合、改善の方策を記入してください)

* () 内の数値で計算し、A=3.5～4.0、B=2.5～3.4、C=1.5～2.4、D=1.0～1.4 で評価する。

領域	No.	評価項目	達成状況							取組の適切さ										
				中間	昨年度	昨年度 中間	A	B	C	D	空欄		中間	昨年度	昨年度 中間	A	B	C	D	空欄
学校経営	1	確かな学力を育成し、協働して課題を解決する能力を育み、主体的で深い学びを促進する。	B (3.2)	3.0	3.0	3.0	4	13	0	0	0	B (3.3)	3.2	3.1	3.1	5	11	0	0	1
	2	多くの体験活動を通して、基礎的汎用的能力の育成を図るキャリア教育を推進する。	B (3.4)	3.3	3.1	3.2	7	10	0	0	0	B (3.4)	3.4	3.3	3.1	7	9	0	0	1
	3	情報発信等を通して、家庭・地域社会との連携を深め、信頼される学校づくりを推進する。	B (3.2)	3.1	3.0	3.1	3	14	0	0	0	B (3.3)	3.1	3.0	3.1	4	12	0	0	1
	4	チームワークで組織の協働性・機動性を高め、教員個々の指導力を高め、学校力向上を推進する。	B (3.1)	3.0	2.9	2.8	2	14	1	0	0	B (3.1)	2.9	2.9	3.0	2	13	1	0	1
教育課程	1	生徒の興味、関心、適性に応じ、多様な進路の実現を目指し、適切な教科・科目の履修ができる教育課程を編成する。	B (3.3)	3.2	3.1	3.2	4	12	0	0	1	B (3.3)	3.2	3.2	3.3	4	11	0	0	2
	2	学校設定科目「松前学」・総合的な学習の時間の系統的な学習ができる教育課程を編成する。	B (3.1)	3.2	3.0	3.1	4	10	2	0	1	B (3.1)	3.2	3.1	3.1	4	9	2	0	2
	3	基礎的汎用的能力を育成するキャリア教育の視点から体系的・系統的に学習できる教育課程を編成する。	B (3.2)	3.2	2.9	3.1	3	13	0	0	1	B (3.3)	3.2	3.2	3.0	5	10	0	0	2
	4	教育活動全体を通して道徳教育及び人間としての在り方生き方に関する教育の充実を通して豊かな心を育てる教育課程を編成する。	B (3.1)	3.2			2	14	0	0	1	B (3.1)	3.2			2	13	0	0	2
	5	全教科と連携し、教育課程の検討を深化する。	B (3.1)	3.2	3.1	3.1	2	13	1	0	1	B (3.1)	3.3	3.2	3.1	2	12	1	0	2
学習指導	1	主体的・対話的で深い学びを実現する為に指導・評価方法の工夫・改善を図る。	B (3.3)	3.0	3.1	3.1	4	12	0	0	1	A (3.5)	3.1	3.3	3.3	7	8	0	0	2
	2	授業規律の確立を図る。	B (3.0)	3.1	3.1	3.1	0	16	0	0	1	B (3.1)	3.2	3.1	3.3	1	14	0	0	2
	3	教務内規の見直しを図る。	B (3.1)	3.0	2.9	2.9	1	15	0	0	1	B (3.1)	3.1	3.1	2.9	1	14	0	0	2
	4	指導と評価の一体化、評価指導の年間計画、観点別学習状況の評価	B (2.9)	3.0	3.0	3.0	0	15	1	0	1	B (2.9)	3.2	2.9	2.9	0	14	1	0	2
	5	「朝の読書」を効果的に実施する。	B (3.3)	3.3	3.1	3.1	5	11	0	0	1	B (3.3)	3.4	3.2	3.4	4	11	0	0	2
生徒指導	1	予防的、開発的な教育相談を通して、生徒理解に努め、よりよい人間関係の育成を図り、生徒事故の未然防止に努める。	B (3.3)	3.2	3.1	3.1	4	12	0	0	1	B (3.2)	3.2	3.1	3.2	3	12	0	0	2
	2	校内・外において基本的な生活習慣の確立に努める。	B (3.1)	3.2	3.2	3.2	2	14	0	0	1	B (3.2)	3.2	3.2	3.2	3	12	0	0	2
	3	環境美化に対する意識の向上を図り、自ら実践する態度を育成する。	B (3.3)	3.4	2.9	2.9	4	12	0	0	1	B (3.3)	3.4	3.1	3.3	4	11	0	0	2
	4	自主的に健康管理できる人間の育成を図る。	B (3.1)	3.2	3.0	3.0	2	14	0	0	1	B (3.1)	3.2	3.1	3.1	2	13	0	0	2
	5	生徒一人一人が生徒会活動を理解し、自主的、積極的に活動できる環境作りと態度の育成を図る。	B (3.1)	3.0	3.1	3.1	2	13	1	0	1	B (3.1)	3.0	3.1	3.1	2	13	0	0	2
進路指導	1	早期からの就職・進学両方に対応する進路指導を推進する。	B (3.3)	3.3	3.0	3.1	5	11	0	0	1	B (3.3)	3.3	3.1	2.9	5	10	0	0	2
	2	進路シラバスを活用し、3年間を見通したキャリア教育により、適切な進路選択と実現が達成できる進路指導を推進する。	B (3.1)	3.3			2	13	1	0	1	B (3.1)	3.3			2	13	0	0	2
	3	個々の適性・能力・希望に応じた進路選択を指導する。	B (3.3)	3.4	3.0	3.1	4	12	0	0	1	B (3.3)	3.4	3.1	3.0	4	11	0	0	2
	4	情報の効果的な収集・整理・提供を推進する。	B (3.2)	3.2	3.0	2.9	3	13	0	0	1	B (3.2)	3.3	3.0	3.0	3	12	0	0	2
	5	学年、保護者との十分なコミュニケーションを形成する。	B (3.1)	3.1	3.1	3.1	2	14	0	0	1	B (3.1)	3.0	3.1	2.9	2	13	0	0	2
	6	スタディサプリ、模擬試験などを利用した進路指導を充実させる。	B (3.2)	3.1	3.3	2.9	3	13	0	0	1	B (3.2)	3.1	2.9	3.1	3	12	0	0	2
いじめの対応	1	松前高等学校「いじめ根絶宣言」を生徒に定着させ、学校として「いじめを許さない」姿勢を生徒に浸透させる。	B (3.2)	3.3	3.3	3.1	4	11	1	0	1	B (3.2)	3.3	3.2	3.3	4	10	1	0	2
	2	いじめ防止基本方針に則り、日頃から生徒の様子に注意を払い、生徒情報を共有し、その情報に応じて組織的かつ柔軟に対応する。	B (3.4)	3.5	3.2	3.2	6	10	0	0	1	B (3.4)	3.5	3.2	3.4	6	9	0	0	2
	3	重大事態が発生した場合には、速やかに北海道教育委員会を通じ北海道知事へ報告し、北海道教育委員会と協議のもと対応する。	B (3.3)	3.4	3.3	3.1	4	12	0	0	1	B (3.3)	3.4	3.1	3.4	4	11	0	0	2
	4	いじめを発見した時には、速やかに対応し、是々非々の姿勢で指導する。	B (3.4)	3.5	3.3	3.2	6	10	0	0	1	B (3.4)	3.5	3.3	3.4	6	9	0	0	2
地域連携 情報発信	1	地域の人材や施設を活用した教育活動を充実させる。	B (3.4)	3.6	3.4	3.3	6	11	0	0	0	B (3.4)	3.6	3.3	3.6	6	10	0	0	1
	2	P T A活動の充実を図る。	B (3.3)	3.3	3.2	3.1	5	12	0	0	0	B (3.3)	3.3	3.0	3.2	5	11	0	0	1
	3	地域行事やボランティア活動に生徒と教職員が主体的・積極的に参加交流する。	B (3.1)	3.2	3.2	3.2	3	13	1	0	0	B (3.1)	3.3	3.1	3.2	3	12	1	0	1
	4	小中一貫「松前学園」との連携を進める。	B (2.8)	2.7			1	11	3	1	1	B (2.8)	2.7			2	9	3	1	2
	5	学校通信やホームページ、学校案内、学校広報ポスターの内容を更に充実させる。	A (3.5)	3.3	3.2	3.3	9	8	0	0	0	A (3.6)	3.8	3.3	3.2	9	7	0	0	1
教員研修	1	資質能力を高める公開授業と研修を推進する。	B (3.3)	3.2	3.3	3.2	4	12	0	0	1	B (3.3)	3.4	3.3	3.1	4	11	0	0	2
	2	小中学校との学びの連続性の維持により授業力を向上させる。	B (2.9)	3.0	3.0	3.0	0	14	1	0	2	B (2.9)	2.8	3.1	2.9	0	13	1	0	3

◇その他何かご意見等があればお願いします。
1.7枚提出された。達成状況のみの記載 1枚。

平成30年度 学校評価アンケート【地域・保護者・生徒】

◇本校の教育活動について、次の項目ごとに評価をお願いします。

[評価] A～できている B～ある程度できている C～どちらともいえない D～ややできていない E～不十分である /～わからない
A:5 B:4 C:3 D:2 E:1 /:計算に加えない

平均 A:4.5~B:3.5~C:2.5~D:1.5~E:~1.4

No.	評価項目	地 域 (昨年度)		保 護 者 (昨年度)		生 徒 (昨年度)	
		地 域	地 域	保 護 者	保 護 者	生 徒	生 徒
1	全ての教育活動を通してこれからの社会で求められる資質・能力(主体性、協働性、思考力、判断力、表現力など)を育む教育が展開されている。	B	4.0 新規	B	4.1 新規	B	4.3 新規
2	体験的、主体的な活動を通して、キャリア教育が推進されている。	B	4.2 新規	B	4.1 新規	B	4.4 新規
3	情報発信等を通して、家庭・地域社会との連携を深め、信頼される学校づくりが推進されている。	B	4.3 (4.3)	B	4.0 (3.7)	B	4.3 (3.9)
4	生徒の興味、関心、適性に応じ、多様な進路の実現を目指した教育活動がされている。	B	4.3 新規	B	4.1 新規	B	4.3 新規
5	学校設定科目「松前学」・総合的な学習の時間を通してふるさとに誇りを持たせる教育活動が実践されている。	A	4.5 (4.2)	B	4.4 (4.1)	A	4.5 (4.2)
6	社会生活において必要な資質、能力を育む教育活動が行われている。	B	4.1 新規	B	4.1 新規	B	4.3 新規
7	豊かな心を育成する教育の充実が図られている。	B	3.9 新規	B	3.9 新規	B	4.3 新規
8	主体的・対話的で深い学びの実現のために指導方法・評価方法の工夫・改善が図られている。	B	4.0 (4.7)	B	3.8 (3.9)	B	4.2 (4.1)
9	授業規律が保たれている。	B	4.4 新規	B	3.9 新規	B	4.2 新規
10	シラバスが提示され、シラバスに則って学習活動がなされている。	B	4.3 (4.1)	B	4.1 (3.9)	B	4.2 (4.2)
11	生徒による授業評価を踏まえた授業改善により、分かる授業が展開されている。	B	4.0 新規	B	3.8 新規	B	4.1 新規
12	教育相談等を通して生徒理解に努め、より良い人間関係の育成に努めている。	B	4.3 新規	B	4.0 新規	B	4.2 新規
13	校内・外において基本的な生活習慣の確立に努めている。	B	4.0 (4.0)	B	4.1 (3.9)	B	4.2 (4.2)
14	環境美化に対する意識の向上を図り、自ら実践する態度が育成されている。	B	4.0 (4.5)	B	4.1 (4.0)	B	4.2 (4.1)
15	自主的に健康管理ができる人間の育成が図られている。	B	3.8 新規	B	4.2 新規	B	4.2 新規
16	生徒一人一人が生徒会活動を理解し、自主的に積極的に活動できる環境作りと態度の育成が図られている。	B	3.9 新規	B	4.0 新規	B	4.2 新規
17	早期からの就職・進学両方に対応する進路指導の推進が図られている。	B	4.4 (4.2)	B	4.2 (4.1)	B	4.4 (4.3)
18	進路シラバスを活用し、3年間を見通したキャリア教育により、適切な進路選択と進路実現が達成できる進路指導が行われている。	B	4.2 新規	B	4.1 新規	B	4.3 新規
19	個々の適性・能力・希望に応じた進路選択が可能となる指導が行われている。	B	4.1 新規	B	4.1 新規	B	4.4 新規
20	進路に関する情報が効果的に適格に提供されている。	B	4.2 新規	B	4.1 新規	B	4.4 新規
21	スタディサプリ、模擬試験などを利用した進路指導が充実している。	B	4.4 (4.3)	B	4.3 (4.0)	A	4.5 (4.2)
22	家庭との連携において、保護者と十分なコミュニケーションが形成されている。	B	3.9 (4.3)	B	3.9 (3.9)	B	4.2 (4.2)
23	松前高等学校「いじめ根絶宣言」を生徒に定着させ、学校として「いじめを許さない」姿勢を生徒に浸透させている。	B	4.1 (4.3)	B	4.1 (4.1)	B	4.2 (4.1)
24	日頃から生徒の様子に注意を払い、いじめを見逃さないように努めている。	B	4.2 新規	B	4.0 新規	B	4.2 新規
25	いじめを発見したときには、速やかに毅然とした指導で対応している。	B	3.9 (4.4)	B	3.9 (4.0)	B	4.2 (4.1)
26	地域の人材や施設を活用した教育活動の充実が図られている。	A	4.6 新規	B	4.2 (3.8)	B	4.3 新規
27	PTA活動の充実が図られている。(地域・保護者のみ)	B	4.0 (4.4)	B	4.1 (3.9)		
28	地域行事やボランティア活動に生徒と教職員が主体的・積極的に参加交流している。	B	4.3 (4.3)	B	4.2 新規	B	4.3 新規
29	町内の小・中学校との連携の推進が図られている。	B	4.1 新規	B	4.0 新規	B	4.2 新規
30	学校通信やホームページ、学校案内、学校広報ポスターの内容は充実している。	B	4.4 (4.1)	B	4.0 (3.9)	B	4.1 (4.0)
31	松前高校に入学させて良かった。松前高校に入学して良かった。(生徒・保護者のみ)			B	4.3 新規	B	4.2 新規

4.2 (4.3) 4.1 (3.9) 4.3 (4.1)

回収率 68.0 % 97.0 % 100.0 %

送付数
回収数

25	67	67
17	65	67

E
1.5 D
2.5 C
3.5 B
4.5 A